

[インデックスに戻る](#)

4. 場合の数と確率

4-3. 確率

4-3-1. 事象と確率

4-3-1-1. 試行と事象

「サイコロを投げる」や「カードを引く」などのように、同じ条件のもとで繰り返し行うことができる実験や観測を試行という。試行の結果として起こる事柄を事象という。例えば、1個のサイコロを投げる試行において、「2の目が出る」や「3以上の目が出る」は事象である。

1個のサイコロを投げる時、「1の目が出る」ということを1で表し、「2の目が出る」、「3の目が出る」なども同様に表すことにすると、試行の結果全体は次の集合で表される。

$$U = \{1, 2, 3, 4, 5, 6\}$$

このとき、「3以上の目が出る」という事象は、次のような U の部分集合 A で表される。

$$A = \{3, 4, 5, 6\}$$

同様に、「2の目が出る」という事象も、次の集合 B で表すことができる。

$$B = \{2\}$$

このように、起こりうる結果全体を集合 U で表すと、任意の事象は U の部分集合で表される。 U 自身で表される事象を全事象といい、 U のただ1つの要素からなる集合で表される事象を根元事象という。

例えば、1個のサイコロを投げる時、根元事象は

$$\{1\}, \{2\}, \{3\}, \{4\}, \{5\}, \{6\}$$

の6個である。

集合 A で表される事象を、単に事象 A と表す。

[インデックスに戻る](#)